

【石川】

恋人の聖地 一里野 洋風シンボル登場

2014年6月3日

六角すい屋根のガゼボ

白山市尾添の一里野公園「夏つばきの丘」で2日、ガゼボ（西洋風あずまや）の完成式があった。一里野温泉は白山温泉郷として2010年4月、NPO法人「地域活性化支援センター」から「恋人の聖地」に選定されており、ガゼボは聖地のシンボルになりそうだ。（松本芳孝）

ガゼボは鉄骨造り。一辺が一メートル強の六角形の床に六本の柱を建て、六角すいの屋根が載せてある。高さは約三・五メートル。今夏にも鐘を取り付ける予定。市がガゼボと鐘の費用計約百五十万円を助成した。

完成式には地元、市関係者ら約二十人が出席。白山一里野温泉観光協会の穴田慎一会長が「恋人の聖地の認定を受けて四年。これまでも婚活パーティーやキャンドルナイトなどのイベントをしてきたが、ガゼボ完成を機にさらに多くのカップルらを迎え入れていきたい」とあいさつした。

穴田会長、竹内正隆市観光文化部長ら七人が、恋人の聖地にふさわしくハート形のマスコットを付けたピンクのテープをカットした。同協会は金沢ウエディング協同組合（金沢市）と高原ウエディングをPRし、結婚式や披露宴などの誘客を図っている。



ガゼボの完成式でテープカットをする穴田会長（左）ら＝白山市尾添の一里野公園で